

アップデート：酪農場での鳥インフルエンザ in 米国

11 月の M 情報で、アメリカで検出され続けている「酪農場における乳牛の鳥インフルエンザアウトブレイク」について情報を共有しました。今回は、その情報を更新したいと思います。

とまらない酪農場での発生

2024 年 3 月の下旬に、**高病原性鳥インフルエンザ A(H5N1)**に感染した牛がアメリカ国内で報告され、これは鳥インフルエンザが**ウシに感染した初めてのケース**だという話を以前にしました。

15 州 446 農場で発生を確認（2024 年 11 月 7 日現在）



16 州 959 農場で発生を確認（2025 年 2 月 6 日現在）

インフルエンザのシーズンということもあってか、前回の報告(11月)から2か月足らずで発生農場は約2倍にも拡大しています。鳥インフルエンザに感染したウシが初めて確認されてから1年が経っていますが、残念ながら米国は酪農場における**H5N1の発生をコントロールできていない**のが現状です。その要因の一つとして、生産者、獣医師、研究者、行政側それぞれが足並みをそろえることができず、連携がうまく取れていないことが背景にあるようです。ウシの症状自体は以前掲載した通り(M 情報 11月号)、軽度な呼吸器感染などを主徴としているのは変わりありません。

一方で、FDA(米国食品医薬品局)は検査体制の構築・拡大を強調しており、12 月下旬には生乳だけではなく(パステライズされていない)生乳由来のチーズ(最低 60 日間は熟成)についても全国的に鳥インフルエンザを検査するとしています。



米国における初のヒト感染例の死亡

1 月上旬米国ルイジアナ州在住の基礎疾患のある 65 歳以上の高齢女性が一連の乳牛・高病原性鳥インフルエンザ感染後に死亡したのが確認されました。患者は、自宅の裏庭で鶏と野鳥に接触したことが報告されており、12 月から重症な呼吸器症状のため入院していたとのことです。死亡した女性を含めて、1月末時点で米国でのヒト感染事例は 68 人と報告されています。

また、カンボジアやイギリスでも高病原性鳥インフルエンザの感染例が1月に報告されています(米国で発生中の乳牛ー鳥インフルエンザアウトブレイクとの関連はおそらくない)。アメリカや WHO(世界保健機関)などは依然として**ヒトへの感染リスクは低い**としており、引き続きしっかりとしたモニタリングが行われる必要があります。



まとめ

国内では乳牛感染は確認されていないものの、鳥インフルエンザは過去最多ペースで発生しており、今期はすでに800万羽以上の養鶏が殺処分されています。過剰に反応する必要はありませんが、野生動物と接触しない・させないなど、**基本的な消毒、飼養衛生管理**を確実に実施していきましょう！！

参考

- HPAI Confirmed Cases in Livestock. USDA, Animal and Plant Health Inspection Service. <https://www.aphis.usda.gov/livestock-poultry-disease/avian/avian-influenza/hpai-detections/hpai-confirmed-cases-livestock>
- GOV. UK. Bird flu (avian influenza): latest situation in England. <http://www.gov.uk/government/news/bird-flu-avian-influenza-latest-situation-in-england>